

校長室より

第87号

「天空高き」



平成28年9月20日

高水魂一第69回運動会一

今年の夏の厳しい暑さを心配していました。台風12号の影響で、曇り空の中比較的過ごしやすい天候の下、第69回の運動会が開催されました。

ほとんどの競技がぶっつけ本番でしたが、生徒たちは仲間と協力して、身体を動かすことの心地よさを存分に味わっていたと思います。

あるご来賓の方が、こんな感想を述べられていました。

「子供さんたちはリラックスして楽しそうに、競技や演技に取り組みられていますね。観戦マナーも大変素晴らしいですね」

昨年と同じような感想をいただきましたが、私も同様に、強く思いました。

生徒たちが一生懸命に競技に取り組む姿勢や態度。それを各陣屋で観戦する生徒たちのマナーの良さ。そして、盛んに応援されている保護者や家族の方々。それらが一体となって醸し出す、何とも言えない深い感動に私は包まれました。

今年特に感動したのは、閉会式の付属中の生徒たちの校歌を聴いた時でした。私も大きな声で校歌を歌ったのですが、自分の声がよく聴き取れませんでした。それぐらい付属中の生徒たちの声には迫力がありました。また、付属中の応援合戦も年々創意工夫を重ね、本校の伝統になっています。付属中校長の宮本先生が中・高生のこのような姿勢や態度の素晴らしさを「高水魂」と命名されました。119年の伝統の上にさらに新しい伝統が創られていく瞬間を、この目で肌で感じられるという感覚はなかなか味わえない素晴らしいものです。主役である生徒の皆さんはその中心にいるのでなかなか気が付かないかもしれませんが・・・。



7分間の奇蹟一新幹線・清掃チームの”おもてなし”

新幹線車両の清掃する様子を見たことがありますか？

今、JR東日本テクノハートTESSEI（テッセイ）の清掃チームの”おもてな

思いは心でしか受け止められない

し”が、世界中から注目されています。それは「7分間の奇跡」と言われ、2020年の東京オリンピック招致に向けて一躍話題となった日本人の「おもてなし」の心が、再び世界中から脚光を浴びています。

JR東日本の新幹線の折り返し停車時間はわずか12分です。そこから乗客の乗降時間をマイナスすると7分だそうです。突発的なトラブル等を考え合わせると実質4分前後だそうです。この短時間で1組22名（全部で11組）の清掃員たちが入れ替わり立ち替わりホームに登場し、1人当たり1車両（100席）の清掃を完璧に終わらせなければならないそうです。



www.nikkeibp.co.jpより

彼らの仕事ぶりは、新幹線がホームに到着する前から開始されます。

到着ホームに、1組22名の清掃員が整列し、準備します。到着と同時に、ごみを回収。トレイの掃除やブラインドを上げたり、ラックのチェック、そして座席の向きを変えたりします。そして最後に、仕上げの床掃除をして終了。終了時にはスタッフがホームにすらりと並び一礼すると、乗客から拍手がわき上がることもあるそうです。

同社のスタッフが清掃する座席、テーブル数は1日に約12万席あり、年間約5千万席に上るそうですが、クレームは年間5件程度だそうです。

同社では、「清掃活動」を「新幹線劇場」と呼んでいるそうです。これは、お客さまが主役であり、従業員が脇役となって、一緒にこの場所で素晴らしい思い出を作ろうという意味合いが込められており、その根底には「お客さまの満足感、従業員に満足感がなければ生み出せない」という考え方があるそうです。

同社は「キツイ、汚い、危険」と呼ばれ、多くの人が敬遠する3Kの清掃業のイメージを変えることにも貢献しています。清掃業は「感謝」「感激」「感動」という3Kを届ける素晴らしい仕事だと考えているようです。

同社のこうした考え方やスタッフの管理手法は、ハーバードビジネススクールに教材として取り上げられています。是非皆さんもYouTube等で視聴してください。

第4次産業革命！ー小学生からプログラミング教育ー

「小学生が大人になる頃には、今ある職業の65%がなくなる」「2045年には、人工知能（AI）が、人間の知能を追い越す」などと言われています。

職業の話はデューク大学教授キャシー・デビッドソン氏、人工知能の話は未来学者レイ・カーツワイル氏が出した見通しをもとにした話で、世界的に大きな話題となりました。

先般テレビで、ドローンを利用して測量を行っている番組を観ました。

建築や土木等の世界では、まずその土地の現況（面積や地形等）を測量する必要があります。皆さんも道路等で測量している様子を見たことがあると思います。夏の炎天下や寒さ厳しい冬などの気象条件下でも黙々と作業をされています。測量には多くの時間と労力を要します。しかし、その番組では、ドローンによる作業現場の撮影範囲指定から 3D データ作成まで、すべて自動で行えますので、専門知識やスキルがなくても、また多くの測量専門の人手を介さなくても効率的に高精度な測量作業を行うことができていました。さらに、作成された 3D データを基に、地図作製や造成計画、実施設計などの工程も活用されていました。



出典 日刊建設工業新聞

たった 1 台のドローンが測量技師やそのスタッフ達の仕事を奪ってしまいました。今ある職業がなくなる、人工知能（AI）が人間の知能を追い越すとは、こういう事だと改めて認識させられました。

21 世紀に生きる皆さんにとって、どのような進路を選択しどのような職業に就くとしても、情報活用能力を身に付ける必要があります。これからの時代は、コンピュータと常に共存して生活し、活用しながら仕事をする時代になっていきます。

コンピュータがどんな仕組みで動いていて、何ができ、何が苦手なのか、皆さんはコンピュータをどう使っていくことが、より人間らしく生きていくことにつながるかを知っておかなければなりません。これが、今皆さんに求められているプログラミング教育です。

ボーッとするとき—科学的見地から—

自分のことで申し訳ありませんが、誰からも干渉されることのない、自分だけの時間が無性に欲しくなる時があります。所謂（いわゆる）、「ボーッとする時間」です。

そんなときは、大体、多忙を極めているときや抜き差しならないときです。

ある雑誌を読んでいた時に、たまたまこのような記事を見つけました。

『人間はどうしてボーッとすることがあるのかな』

それに対して、脳科学者の篠原菊紀がこう答える。そもそも人間はそう長くは集中できない。計算問題も、10 分もすれば成績が落ちる。そうするとボーッとしてくる。しかし、このボーッとする時間は、何も考えていないわけではなくて、その間に、それまでの記憶や情報について検索し、自分とつなげようとしている、というのだ。ボーッとするのもムダではない。

だから、篠原曰く、『うまくボーッとしてください』。絶え間なく集中、情報取得をし続けることが、脳の鍛錬になるわけではない。ときに、『ボーッとする』ことが、人



間の脳にとって大切な役割を果たす。なんだかうれしくなる、科学的見地であった。」
この文章を読んで、「目から鱗がおちる」ではありませんが、胸がスーッとする思いでした。

いま歩きながら、自転車に乗りながら、電車の中など、街中至る所、スマホで埋めつくされています。本来ならぽっかり空いた時間なのに、「ボーッとする時間」なのに、その時間の隙間がスマホによって消滅してしまっています。

ときに、スマホを休ませることが皆さんから事故だけでなく、皆さんの心身の危機を救ってくれます！でも、授業中の「ボーッ」はだめですよ。

名言から学ぶイチロー選手と黒田投手から

アメリカのメジャーリーグで3千本安打を達成したイチロー選手が、9月4日に中継ぎ左腕投手ミラー選手から勝ち越しとなる適時二塁打を放った時のコメントです。

「気持ちで打てるわけじゃないですからね。気持ちで打てるなら毎回打てますから。それなりのレベルの相手だったら技術で打たないとね。気持ちで打ったことは一度もないですよ」。

次は25年ぶりにセリーグ優勝に貢献したカーブ黒田選手のコメントです。

「野球には気持が必要だ。3者連続本塁打（6月3日ソフトバンク戦で）を浴びれば、気持ちが弱くなる。自分を疑い出す。それでも、疑う中で、それを受け入れて次のステップにいかないといけない。

次へ、次へ。そう気持ちを向けた。必死にローテンション投手としての責任を全うしようと思った」

24節気 秋分（しゅうぶん） 9月22日

皆さん、理科の授業で習ったと思いますが、この日は真東から昇った太陽は真西に沈み、昼と夜の時間がほぼ等しくなります。北半球ではこの日を境に、次第に昼が短く、夜が長くなります。この日をはさんだ前後7日間が「秋の彼岸」で、この日(22日)を秋彼岸の中日と言います。秋の七草が咲き揃う頃でもあります。

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われ、この日を境に寒さが増してくるとされます。「彼岸」は、「現世を離れ極楽浄土の岸に到る」という意味の仏教の言葉で、墓前に花や線香を手向け先祖を供養する姿が各地で見られます。皆さんも墓参りをして先祖を供養しましょう。



秋の七草